

コード	402040201
記入日	H24.5.16

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	浜辺 伊三美

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	有害鳥獣防除推進対策事業
----------	--------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	1
基本事業コード	40204	基本事業名称	有害鳥獣対策の強化	目コード	3
事務事業コード	4020402	事務事業名称	有害鳥獣駆除推進対策事業費	細目コード	885
関連計画		法令・条例規則等	新上五島町農業振興奨励事業費補助金交付要綱		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標						
(対象1) 農家 (対象2)		(対象指標1) 502戸 (対象指標2)						
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）						
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****		・有害鳥獣の進入防止策として、電気柵、ワイヤーメッシュ柵を設置した651件について1/2の助成を行った。		*****	*****	*****	広報活動実績÷ 広報活動計画	*****
				① (達成率分析)	1回	100%	広報活動実績÷ 広報活動計画	平成23年度
				町広報誌に助成制度を記載し、農家への周知を図った。また、防除等の相談に対応し、防護柵等の普及を図った。				
				*****	*****	*****	報奨金交付件数÷ 報奨金申請件数	*****
				② (達成率分析)	651件	100%	報奨金交付件数÷ 報奨金申請件数	平成23年度
				補助金申請の内容を確認し、651件交付した。				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）						
				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
				*****	*****	*****	電気柵等設置実績÷ 電気柵等設置計画	*****
				① (達成率分析)	651件	100%	電気柵等設置実績÷ 電気柵等設置計画	平成23年度
				電気柵及びワイヤーメッシュ柵を推進し、農作物被害の減少を図った。				
				② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	7	7	6	1	1					
	② 件	1,233	1,233	582	651	651					
成果指標	① 件	1,348	1,348	697	651	651					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	45,604	45,604	28,018	17,586	17,586					
直接事業費 A	千円	40,704	40,704	23,818	16,886	16,886					
人件費 B	千円	4,900	4,900	4,200	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.7	0.6	0.1	0.1					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	45,604	45,604	28,018	17,586	17,586					

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理由	農作物被害を少なくするために必要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理由	農家の生産意欲を減退させないために必要である。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	ある ● ない	理由	現制度にて充分である。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理由	必要最小限の経費で事業を実施している。
		・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。	代えられる ● 代えられない	理由	事業推進上できない。

改善 (ACTION)

1 次 評 価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2 次 評 価	補助件数・設置数も前年度より増加しており成果が確認できる。今後も被害縮小を図るため捕獲と合わせ引き続き防除対策を推進していくこと。
------------------	---

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業 の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。